

4 令和7年度予算の概要

22

4 令和7年度予算概要 (1)方針

【令和7年度予算の方針】

上下水道局では、令和3年3月に策定した「上下水道事業基本計画2030（計画期間：令和3～12年度）」及び「上下水道事業中期経営計画2025（計画期間：令和3～7年度）」に基づき、着実に事業を推進するとともに、経費節減や増収対策など、経営基盤の強化に努め、「お客さまに信頼される上下水道」を目指します。

具体的には、上下水道施設の長寿命化や改築・更新、災害対策などに取り組むとともに、本市の持つ高い上下水道技術を国内外で活用し、上下水道事業の発展的広域化や国際貢献の推進に取り組みます。

(単位：百万円)

	予算（支出額）		収益的収支			単年度 資金収支
		前年度比	収入	支出	差引	
水道事業	37,482	4.7%	20,176	21,580	▲1,404	▲1,209
水道用水供給事業	3,346	113.9%	1,095	1,004	91	0.2
上水道事業	40,828	9.3%	21,271	22,584	▲1,313	▲1,209
工業用水道事業	4,177	▲8.9%	2,069	1,992	77	▲26
下水道事業	52,112	▲1.0%	26,974	28,016	▲1,042	▲1,007
計	97,117	2.7%	50,314	52,592	▲2,278	▲2,242

23

4 令和7年度予算概要 (2)基本的な考え方

「稼げるまち」の実現 3,603百万円 (対前年度 +149.3%)

上下水道事業の広域連携の推進や官民連携の海外水ビジネスを展開し、国内外への貢献を行うとともに、資源の有効利用などを推進し、収益確保を図ります。

- ・行橋市・苅田町への水道用水供給事業の拡大等による広域連携の推進
- ⑧ 企業進出に伴う下水道の整備
- ・企業進出に伴う工業用水道の整備
- ・インフラシステムの輸出による海外ビジネス展開

「安らぐまち」の実現 11,723百万円 (対前年度 +4.7%)

長期的な観点から施設規模や機能の最適化を図りながら、更新時期を迎える上下水道施設の長寿命化、改築・更新に取り組むとともに、豪雨や地震といった災害に強い上下水道施設の整備などを進め、市民の生活を守ります。

- ・震災対策の拡充・強化
- ⑧ 上下水道一体となった地震対策
- ・豪雨対策の拡充・強化
- ⑧ 若松ポンプ場の整備

その他の取り組み 18,535百万円 (対前年度 +4.9%)

水環境の向上や、資源の有効利用などによる環境負荷低減を推進します。また、DXの推進にも取り組み、作業の効率化を図ります。

- ・上下水道施設の長寿命化と改築・更新
- ・危機管理体制の充実・強化
- ・水質管理体制の充実
- ・水質監視強化
- ・省エネルギーの推進
- ・外郭団体等との連携強化
- ・衛星画像とAIを活用した漏水調査
- ⑧ 下水道台帳維持管理システムの再構築

⑧: 新規事業、⑧: 拡充事業

4 令和7年度予算概要 (3)主要施策 ①「稼げるまち」の実現 i 広域事業

行橋市・苅田町への水道用水供給事業の拡大等による広域事業の推進 【1,880百万円】

- ★行橋市・苅田町への拡大
- ★古賀市・宗像地区事務組合への供給量の増量



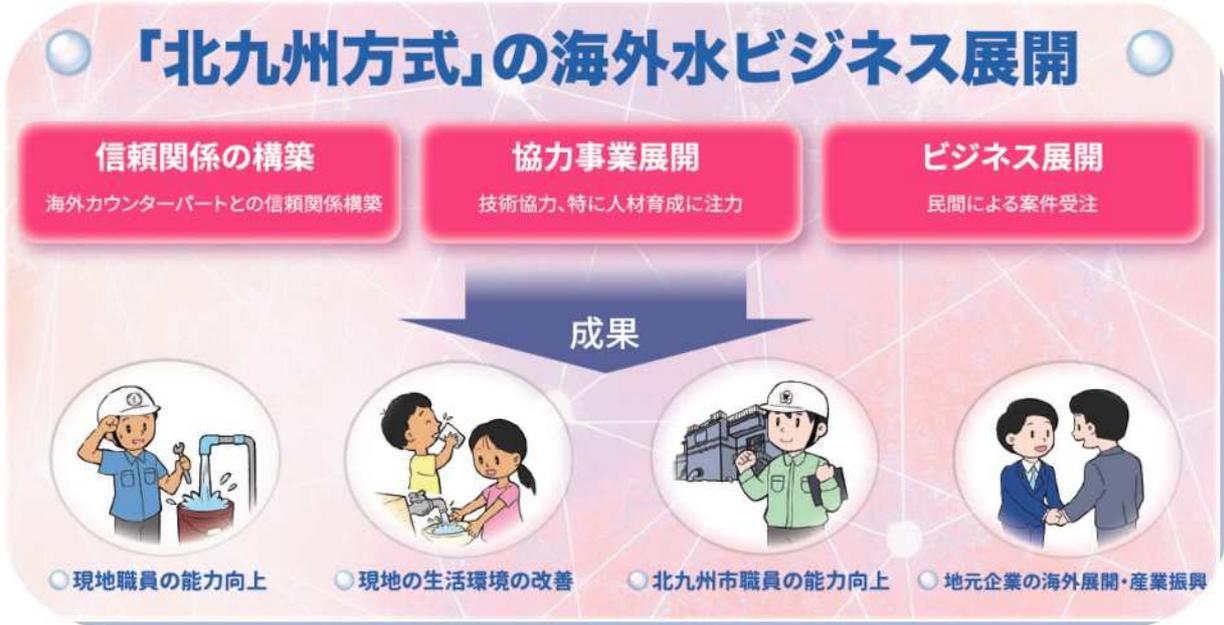
経営基盤強化



※本市水道事業の固定費負担軽減額は、令和18年度以降、年間約1.9億円

インフラシステムの輸出による海外ビジネス展開 【157百万円】

国際技術協力で獲得した相手国との信頼関係を活用し、北九州市海外水ビジネス推進協議会の会員企業が実施する海外水ビジネスを支援

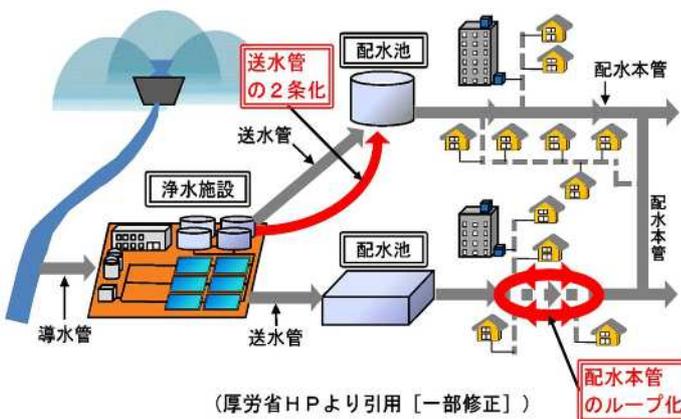


会員企業の累計受注実績は、平成22年以降、**約275億円**（上下水道事業合算）

震災対策の拡充・強化① 【8,423百万円】

バックアップ機能の強化
(273,690千円)

- ★八重洲分岐～城野分岐送水管の2条化
- ★井手浦系配水本管のループ化



水道管路の耐震化
(6,018,070千円)

- ★更新に合わせた耐震化



浄水場・配水池の耐震化
(296,831千円)

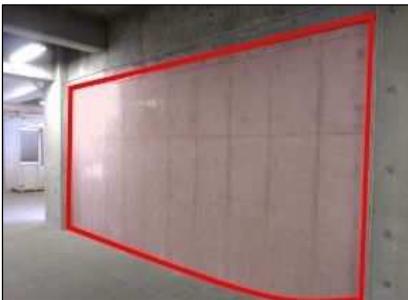
震災対策の拡充・強化② 【8,423百万円】

浄化センター・ポンプ場の耐震化 (250,000千円)

北湊浄化センター施工例

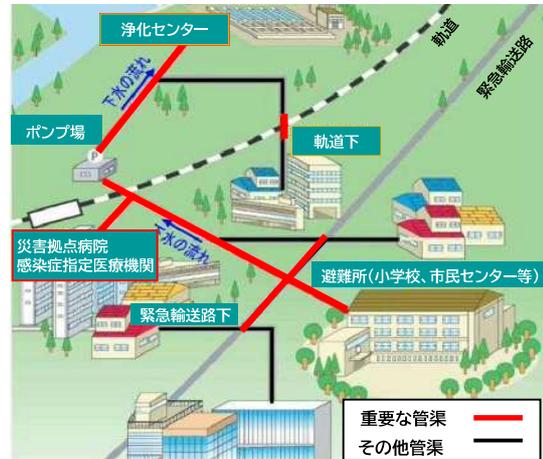


補強前
耐震診断により
補強箇所を選定



補強後
中空部に
耐震壁を設置

下水道管渠の耐震化 (1,584,510千円)



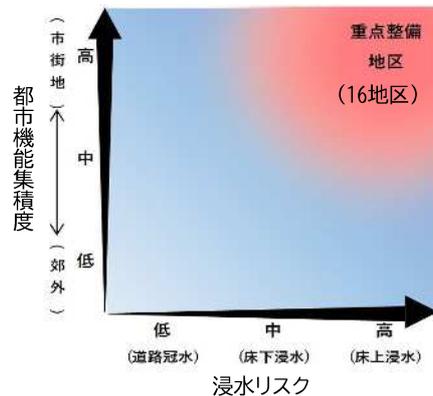
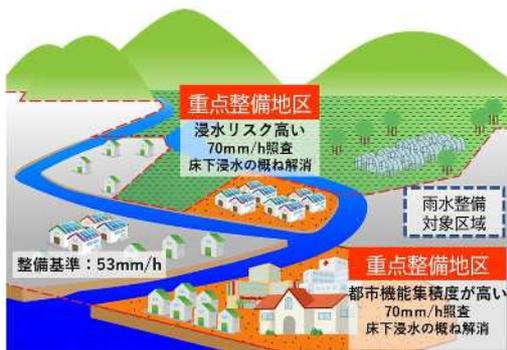
重要な管渠の耐震化



既設管内部を
全面補強

豪雨対策の拡充・強化 【2,870百万円】

局地化、集中化する豪雨から市民の生活を守るため、重点整備地区(宇佐町・片野新町、沼本町、上葛原二丁目等)を中心に、効果的に施設整備を進める。



平成30年
7月
浸水被害
(片野新町)



雨水貯留管
(昭和町
貯留管
施工例)

「稼げるまち」の実現（稼げる「基盤」をつくる）

・ **企業進出に伴う下水道の整備** **650百万円**

若松区など、企業進出に伴い新たな排水を見込む地区に下水道整備を行い、企業活動の基盤を整え、あわせて使用料収入の増加を促進

・ **企業進出に伴う工業用水道の整備** **917百万円**

若松区など、企業進出に伴い新たな工業用水の使用を見込む地区に配水管を整備し、企業活動の基盤を整え、あわせて使用料収入の増加を促進

「安らぐまち」の実現（生活基盤の「安心」を支える）

・ **上下水道一体となった地震対策** **20百万円**

能登半島地震を受け、上下水道一体で管路等の耐震化の重要性が認識されたため、上下水道システムの急所施設（その施設の機能を失えばシステム全体が機能を失う最重要施設）や、重要施設（災害拠点病院、避難所等）に接続する上下水道管路等の一体的な耐震化計画を策定

・ **若松ポンプ場の整備** **890百万円**

老朽化が著しい3つのポンプ場を統廃合し、雨水ポンプの増強による排水能力の向上や耐震化、耐水化などの機能を兼ね備えたポンプ場の整備に着手